

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	在宅生活に少しでも近い生活を送っていただけるよう、利用者を生活の主人公とした『目配り、気配り、心配り』の理念を掲げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	週一回のミーティングでは、具体的なケアが理念に基づいているかどうか絶えず話し合い職員間の意志統一を図っている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	Aユニットの入り口に理念を掲示し、家族便り(マリー通信)で伝えたりご家族の来所時にお話をさせていただいたりしているが、地域の人々への浸透については運営推進会議で始めたばかりである。	○	地域の人々との交流を深めることによって、理念の浸透を図っていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設の周りは蓮根畑と芋畑で民家は少ない、お散歩の時に挨拶をしたり野菜を分けてもらったり購入したりしている。	○	地域の人々との交流を深め、お互いに行き来できる環境を作っていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の人たちを招待して、納涼祭を行なった。	○	自治会等の地域活動に参加して地元の人々と良好な関係を築いていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議等で当施設において何が出来るか探っている段階。	○	地域の方々の介護相談を受ける等できることから始めていきたいと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	マニュアルを整備したり、ミーティングの時に話し合ったりして、改善に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事務所からの報告だけに終わらず、参加メンバーからの意見や提案を受けよりよいグループホーム作りに役立っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは頻繁に利用者の暮らしぶりや課題について連絡を取り合い、問題の解決に当たっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は社会福祉士で権利擁護の相談を受ける「ばあとなあ」の一員である。権利擁護が必要と思われる利用者に対して本人および家族に説明を行い、相談の上利用者の支援に結び付けている。現在成年後見制度の被補助人が一名権利擁護事業の利用者が一名おられる。	○	定期的に行っている勉強会に権利擁護の勉強を取り入れて職員の意識向上に努めたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員には事あるごとに虐待の起こりやすい状況での対処法について指導している。ただ、関連法について学ぶ機会があまり無い。	○	定期的に行っている勉強会の中で関連法について学んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をとって丁寧に行なうように心掛けている。疑問点や不安に思うところは一つ一つ納得していただけるように説明している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見、不満等を言いやすい環境を作るため管理者も職員も絶えず話を伺うという姿勢でいるように努めている。出てきた意見不満等は聞いた職員だけでなく、全職員が問題の解決にかかわるようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回マリ－通信を発行し家族に送付している。その中で利用者の暮らしぶりや健康状態についてお知らせしている。金銭管理については一人ひとり出納帳を付け、家族の求めに応じて開示している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には家族便り(マリ－通信)や家族会、来所されたとき等に問いかけを行いご意見ご要望を伺うようにしている。出されたご意見等については、ミーティングで何回も話し合い、できるだけ利用者の要望に添うような形で解決をめざしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを図るように心がけ、問題点について問いかけたり、話し合いを持つようにしている。月に一回以上個別の面談を行い、利用者の為にできることは何か、生きがいを持って働くためにはどうすべきかについて話し合う。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員はユニットごとに配置しているが、要望に応じA、Bどちらのユニットでも対応できるように職員の勤務調整を行なっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者にはそれぞれ複数の担当者を配し内一人が異動になっても後の一人が新しい担当者と利用者の関係をサポートしながら勤務を行う事によって異動によるダメージを防いでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホーム職員を対象とした研修に参加したり他施設への見学等を通して学ぶ機会があまり持っていない。</p>	○	これからは積極的に他の施設への見学やグループホーム職員を対象とした勉強会に積極的に参加していきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のグループホームへの見学・相互訪問を行い、他事業所の良かった点などを会議等で報告している。しかし、実際に他事業所に行っているのは一部の職員に限られているのが現状。</p>	○	他の職員も勉強会や、相互訪問等の活動を通じてサービスの向上に繋げていきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>働きやすい環境を作るために職員の希望に添った勤務調整をおこなっている。又、やすみ時間等で、職員の気持ちを聞くように心掛けている。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>内科医である運営者は利用者の健康状態を把握するため頻りに現場に来ており個別の職員の業務能力についても把握している。職員が立場に係わらず能力を発揮できるように非常勤、正規職員の区別なく評価している。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所者には必ず担当者を複数配置し、ご本人からよく話を伺いより良いケアに結びつけるように努力している。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族に対してもご本人同様担当者がよく話を伺い、求めていることや不安に思うことを把握して、信頼関係の構築につとめている。</p>	○	訴えの少ない家族に対しては話しのしやすい環境を作り、ご家族の気持ちをよく伺ってより一層の信頼関係を築いていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスとはなにかご本人ご家族と共に話し合い、必要に応じて、包括支援センターや社会福祉協議会、他の事業所への紹介、問い合わせも含め相談に応じている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	先ず、ご家族の話を伺いご本人も見学していただいて、既に入所しておられる方とお話をして頂き馴染めるよう配慮している。相談に応じる上では、在宅でのサービスも視野に入れ、その上で、先ず体験入所をお勧めしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の主人公と考え職員も一緒に学び考えながら支えあい成長していくように努力している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族便り(マリー通信)にて生活状況をお伝えしながら、面会にこられた折などにお話を伺い一緒にご本人を支えていく方法をご家族と一緒に模索している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	できるだけ家族の方には訪ねて来て下さるように呼びかけている。家族便り(マリー通信)において利用者の優しい一面などを紹介し利用者のご家族の関係をよりよいものにしようと努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できるだけ家族以外の友人の方にも訪ねて来て下さるように呼びかけている。自宅の近くに友人のいる利用者については、時折自宅に戻るよう支援し、馴染みの関係が途切れないように支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	部屋割りの工夫によって介護度の近い利用者が隣同士になるようにして対話しやすい環境を整え、一人ひとりが孤立しないように心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても、次の施設を訪問したり、自宅に帰られた人には自宅訪問をさせていただいて、関係を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者を含め職員が利用者一人ひとりの話に耳を傾け、本人の気持ちを理解するように努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	複数の担当者がご本人から聞き取りを行なう一方、日常生活の何気ない所作より馴染みの暮らし方を把握するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりから話を伺い、日々のケアの中からその人の人となりを観察して全体像をつかむように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	絶えず、様子観察を行い、ご本人ご家族の立場に立って話を伺いながら介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人の残存能力を考慮し、ご家族の要望も伺い介護計画を作成している。生活状況に変化があればその都度、状況に見合った介護計画に変更している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録を作成し職員全員が利用者の状況の変化に絶えず対応できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の生活を支援するという立場から、経済的な問題を抱えた利用者に対しての相談に応じている。	○	権利擁護の必要な利用者に対して、その手続きをご本人や家族相談の上行ったり、裁判所や法テラスの関係者とも連携を取り利用者の権利を守っていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方に運営推進会議のメンバーに入ってもらったり、納涼祭の時にはボランティアの皆さんに手伝っていただいている。	○	地域の皆さんと連携を強化していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険外のサービスを利用することは現時点ではほとんどない。	○	利用者の選択肢を増やすためにも外部のケアマネジャーとの連携や介護保険外のサービスの利用についてもご本人、ご家族、関係機関との調整を行い進めていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見制度の利用が必要な利用者については地域包括支援センターと協働して利用者のご家族に説明し支援に繋がっていききたい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者やご家族が希望するかかりつけ医となっている。家族が同行され受診されるのが基本であるが、時と場合によっては職員が同行や送迎を行うこともある。契約時にその場合有料になることを説明し同意を得ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	運営者が認知症に詳しい医師であり利用者の健康状態と同様に認知症の状況について把握し、治療に当たっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に2回訪問看護師が利用者の健康管理を行い、看護師資格を持つ職員を中心に日頃の利用者の状況を伝えることにより協働して利用者の医療面も含めた介護を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院された時は病院関係者と絶えず情報交換を行い、ご本人と御家族よく話し合いながら早期の退院を目指している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについての指針をまとめており、入所時にはご本人ご家族の同意を頂いている。まだ該当者は存在しないが、重度化した場合には頻繁にかかりつけ医やご家族と連絡を取り、ご本人の思いに添ったケアを行う事を申し合わせている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご本人の意思を大切に、ご家族との話し合いを重ね利用者にとってストレスの少ない穏やかな終末期を送って頂けるように看取りについての指針をまとめている。医療機関とも連携を取りながら、対応していきたい。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人が自宅へ戻られたり、他の施設に移られたりした場合、当施設での生活ぶりや注意点、薬等の医療的情報などを情報提供して住み替えに伴うダメージの軽減に努めている。	○	次の施設に移られる時など当該施設まで職員が付き添い住み替えに伴うダメージの払拭に努めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の管理には気をつけ、生活記録等個人の情報を含む書類の持ち出し禁止、ご本人のプライバシーに係わる事は口にしないように、ミーティングや勉強会の折に確認している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人の気持ちを伝えて頂けるように、居室でお話を伺うようにしている。ご自分で意志を表せない利用者に対して、日常の何気ない動作の中でご本人の希望を汲み取るように努力している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人が生活の主人公であることを肝に銘じ、食事や、入浴の時間以外は日課を設けず、自由に過ごして頂いている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入所前から通っている美容院に行けるように支援を行ったり、納得の出来る店を紹介、送迎、付き添いなどを行い、利用者の望むおしゃれをしていただけるように努めている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりから好みを聞きメニューに反映させている。要支援2の利用者の中で調理が好きな方に後片付けや、盛り付けなどを手伝っていただいている。調理が苦手な職員が当番の時には進んで調理に参加していただく環境が出来上がっている。	○ 家庭菜園を利用者と一緒に行い、収穫した野菜等を料理に使うことを考えています。(現在隣が工事中なのでそれが完成したら)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	週1回、買い物の機会を提供し、利用者の望む物を入手して頂いている。管理能力の不十分な利用者に関しても煙草は施設が預かり一本ずつ吸いたい時にお渡しして職員付き添いの下、決められた場所で吸って頂く等、不自由を感じさせないように配慮している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、オムツを使用している利用者でも仕草や表情を観察し、声かけを行い、トイレに誘導することによってトイレで排泄を行うことができるように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎週月水金曜日のほぼ決まった時間に入浴していただいているが、希望があれば日勤帯に限り毎日でも入浴は可能であ。又、失禁等汚染時には職員側から積極的に入浴、シャワーを奨め、清潔を心掛けている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食事おやつ週1回の買物の時間以外決まった時間はなく自由に過ごしてもらっているが、日中は職員が利用者として積極的に係わって夜間に安眠していただくように心掛けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の能力に応じて、配膳などのお手伝いをしていただき、週2回の外出も行き先は利用者によって決めている。しかし要望の少ない利用者については充分対応できていない。	○	要望の少ない利用者についてじっくりと話を伺い、ご本人の気持ちに添う支援をしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力に応じて自分で管理される方や支払いの都度利用者にお金をお渡しして払っていただく場合などの支援を行なっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝の散歩や週2回の買物等できるだけ本人の希望に応じている。事前に準備を必要とするものの、個別の送迎等も可能である。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出したいとの希望に対して職員が自宅に送迎したり、家族と共に出かけられる機会をつくり、支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は2階のエレベータ前にありいつでも利用は可能場合によっては職員が連絡の代行を行い、手紙についても職員が預かり投函や、取次ぎを行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族には家族便り(マリー通信)を通じて、できるだけ面会に来ていただくように呼びかけている。面会時間については、制限はない。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや勉強会で身体拘束における弊害や何故身体拘束をしてしまうのかについて話し合い、職員の共通認識を図っている。又、身体拘束に関するマニュアルを作成、閲覧を義務付けている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解しているが、同時に利用者の安全を確保する必要もあり、鍵をかけないケアの取り組みはこれからである。	○	鍵をかけない介護を念頭に、帰宅願望の強い利用者の無断外出に対する取り組みを考えていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ユニットごとに利用者の所在を絶えず確認している。日中は、リビングに集まるように奨め、夜間は一時間毎の巡回を義務付けている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの残存能力に合わせて家具の位置を変えたり、ご本人にとって危険と思われるもの(鉄等)についてはご家族の同意の下お預かりしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態を把握しどう点が危険かを担当者を中心として日々話し合い、個別ではないものの事故防止マニュアルを作成、閲覧を義務付けている。	○	利用者の状態の変化に応じて、より適切な事故防止に対する取り組みを行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員を対象にして年1回の応急手当の講習会を看護職員の指導の下、行っている。	○	夜勤時の緊急時対応についてマニュアルはあるが、より綿密なマニュアルに改めるよう現在検討中である。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器の使い方も含め消防署の指導の下、マニュアルに基づく避難訓練を年2回利用者と共にしている。	○	地域の協力体制の構築を目指して運営推進会議での呼びかけを行っていききたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族の安全に対する要望についてできるだけそのお気持ちに添うよう努めてきたため、やや過剰に利用者の行動を制限しているところがある。	○	ご家族とよく話し合い抑圧感のない生活を送っていただくためにどうすればいいかを一緒に考えていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	何種類かの常備薬を備え、体調の変化や異変の発見に努めている、異変に気付いた時は医師又は訪問看護師の指示を求め速やかに対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主に管理を担当している職員は医師、又は薬剤師より直接指導、説明を受けている。現在服用中の薬に関しては用法、容量等をファイリングし、何時でも確認できる状態にしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排便のチェックを行い、水分補給や食事に注意している。又、廊下で歩行練習をしていただいたり、ラジオ体操を職員と一緒にを行い体を動かしながら便秘の予防に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きをしていただく様に奨めている。自分で出来ない利用者については職員が口腔ケアを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては同法人内の管理栄養士に利用者に向けたメニューの作成を代行してもらっている。職員も一人ひとりの食事量や大まかな水分量をワークシートに記入しそれに基づいて、食事や水分補給の支援を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルを作ってそれを職員に徹底している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具等は日頃除菌に心掛け、衛生管理を行うと同時に、調理したおかず等は、検食を2週間冷凍保存している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口の外側にはデイサービスと共通のベンチ、内側には椅子を置いている。玄関には絵画や花を飾り明るい雰囲気を作る。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り付けを利用者と共に行うようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室リビングにはいつでも横になれるように枕や毛布を用意し、和室リビングの横に椅子やソファを置いて畳に座るのが苦手な人でもくつろげるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っておられた家具やベッド、仏壇等を持ってきて頂き、本人が望まれる居住スペースを目指している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気に努め、温度調整もこまめに行なっているが、一部の利用者にとって、本人が望まれる室内環境と本人にとって望ましい室内環境が必ずしも一致しないので先ずご本人を説得することから始めている。	○	できるだけ望ましい環境の中で生活していただくように理解を促し、支援していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路等、車椅子でもすれ違える幅があり、バリアフリーを考えた造りになっている。できるだけ本人のADLを下げないために利用者に合わせて車椅子や歩行器を取り入れ、廊下で歩行訓練をされる時は職員が見守りを行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	担当者を中心として利用者一人ひとりの状態を把握し、ご本人にとってできることと出来ないことの見極めを行い手伝っていただける範囲のお手伝いをお願いしている。浴室やトイレの表示、居室の家具の置き方などに注意している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地が広いので、早朝敷地内での散策や体操を行なっている。	○	来年の3月まで工事が続くので土地自体は活用できていないが、工事が完了したら家庭菜園を作る予定である。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)